

MaaS ～国、地方行政の役割と期待～

計量計画研究所 理事 博士（工学）牧村和彦

1. MaaS（マース）が注目される理由

- ・ 地域が直面している課題の解決策
 - ⇒クルマ非保有への救世主：高齢者、学生、若者、外国人
 - ⇒事故のない世界：ビジョンゼロ
- ・ モビリティ革命の本命：利用者目線でサービス提供ができる
 - ⇒CASE を牽引する手段：移動ストレスからの開放
- ・ 全産業への影響：beyond MaaS
 - ⇒まちづくり、観光、商業、医療、エネルギー他、様々な連携が期待

MaaS とは、

「マイカーという魅力的な移動手段と同等か、それ以上に魅力的なモビリティサービスを提供し、持続可能な社会を構築していこうという全く新しい価値観やライフスタイルを創出していく概念。

単一の交通モードではなく、鉄道、バス、タクシー、レンタカーといった従来の交通サービスや、カーシェアリング、自転車シェアリング、配車サービス、自動運転（将来）などの新しい交通サービスをすべて統合し、1つのスマートフォンのアプリを通じてルート検索、予約、決済等ができる。利用者は移動ニーズに応じて最適な交通サービスの組み合わせを選択し、ドア・ツー・ドアでシームレスに、かつリーズナブルに移動できるサービス」

MaaS～モビリティ革命の先にある全産業のゲームチェンジ：日高・牧村・井上・井上（日経 BP）

2. 先進諸国の取組み、代表例（行政や政策面から）

- ・ 国：フィンランド
 - ⇒ねらい：産業の若返り、魅力ある産業創造、インフラ輸出戦略
 - ⇒目 標：交通戦略 2050（ヘルシンキ）、過度な自動車依存脱却、化石燃料依存しない都市
 - ⇒アクション：オープン化、標準化、法制度＋監視、スタートアップ支援
- ・ 国：シンガポール
 - ⇒ねらい：持続可能な経済成長
 - ⇒目 標：SMART NATION VISION(2014)を受け、Smart Nation Initiative を策定（ヘルスケア、エネルギー、交通、安全の分野横断型）
 - ⇒アクション：MRT＋自動運転＋MaaS を取り入れたスマートシティ建設（2022年に2都市開業）

・ 国：米国

⇒ねらい：都市、交通問題の解決、まちづくりと新しいモビリティの一体開発、フラッグシップ事業を通して全米 20~100 万都市へ展開

⇒目 標：優勝都市コロンバス、2020 年までに乳児死亡率を 40%低下させ、健康の格差を半減させる事を目標。交通システムを改善することによる低所得者向け医療・福祉サービスの充実、経済的な格差を改善

⇒アクション：スマートシティチャレンジ、基幹交通+自動運転+MaaS によるスマートシティ（優勝都市コロンバス）、MOD（Mobility On Demand）による実証展開

・ 自治体：ロサンゼルス市

⇒ねらい：デジタル世代をターゲット（ポストミレニアム世代も想定）、地域ビッグデータプラットフォームを自らが押さえる、過度な自動車社会脱却

⇒目 標：METRO2028 ビジョン、公共交通及び新たなモビリティの利用を倍増

⇒アクション：インフラ投資（IaaS）+MaaS+DaaS のパッケージ戦略

3. 日本版 MaaS：国、地方行政への期待

1) 外国人の移動支援：

⇒バス乗り放題 → モード拡大、期間拡大 → 将来スイスレールパス型へ

※スイスレールパス：国内の全ての交通機関乗り放題（都市内路線バス等含む）

2) 災害時の移動支援：

⇒通行実績（道路のみ）⇒ 通行運行実績（マルチモードへ）→ 将来は災害時の提供義務化へ

3) 若者外出促進支援：

⇒マルチモーダル移動の習慣化：高校生乗り放題 →大学、専門等対象拡大 → 将来はUパス、ゼメスターチケット（入学時の諸手続とセット）へ

※Uパス（米）・ゼメスターチケット（独）：大学生向け公共交通機関乗り放題チケット

4. MaaS と都市：beyond MaaS の観点から国、地方行政への期待

1) 日本版スマートシティのフラッグシップ事業を推進

・ 自動運転+網形成計画+MaaS などが一体となった計画、モデル事業

・ MaaS は交通まちづくりの牽引役

※参考）牧村和彦：MaaS 時代のスマートシティ、未来投資会議産官協議会第 2 回、2018 年 11 月 13 日

2) 都市のリ・デザインを推進

・ 多様なモビリティが行き交う街路空間へ再編、牽引する MaaS

・ 駅前広場、結節点、駅、交差点（モビリティハブ）、街路の再配分、路肩の運用 ⇒ 日本版のブループリント